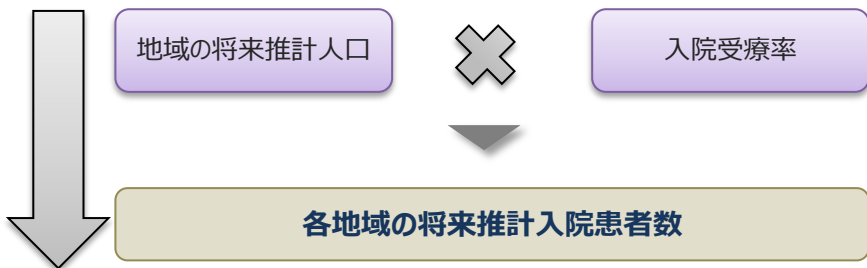


新病院の病床規模の考え方

平成31年3月

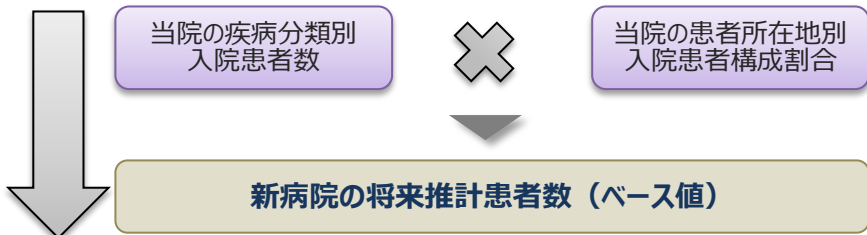
1 新病院の将来推計患者数を試算

① 地域の将来推計入院患者数を試算



駒ヶ根市、飯島町、宮田村、中川村、伊那市、その他地域の区分における2018年から2025年までの患者増減率により試算

② 新病院の将来推計入院患者数のベース値を試算



＜入院患者 住所地構成 平成28年度実績＞

	駒ヶ根市	飯島町	宮田村	中川村	伊那市	その他
患者構成割合	49%	16%	11%	5%	12%	7%
	組合構成市町村計 81%			構成市町村外 19%		

③ その他の要因を加味した上で推計値を補正

減少要因

- ① 全国・県を基準とした疾病分類別平均在院日数の適正化
中長期入院患者のうち・・・
 - 医療資源の投入が比較的少ない回復期の患者（600点未満）を回復期リハ病棟又は地域包括ケア病棟に移行
 - 医療資源の投入が極端に少ない慢性期の患者（175点未満）を在宅医療に移行

増加要因

- ① 新病院の機能強化による患者増加
 - 救急医療（整形外科疾患等）の強化による医療圏外への患者流出防止
- ② 将来的な療養病棟等設置の可能性検証
 - 地域医療構想と整合性を図るため、近隣の医療機関の動向と合わせて引き続き検討

2

新病院に必要な病床規模を試算

- 現状の入院患者から、2025年の将来推計患者数を算出すると、**1日平均209.6人**となる。
- 新病院の病床数を算出するためには、在宅患者の移行による患者数の減少や医療機能の強化による患者数の増加等の増減を考慮する。
- 基本構想では、**220~240床程**とし、当院内での需要や医師の確保状況を踏まえた上で基本計画で継続検討を行う。

